BULLETIN OF JAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATION

JBIA 洋書輸入協会会報

Vol. 32 No. 6（通巻373号）1998年6月

定時総会報告

1998年度定時総会は5月15日午後1時よりホテルエドモントにて開催された。

〔出席状況〕　出　席　46社
　　委任状　27社
　　計　73社

正会員77社に対して過半数の出席を得たので、協会規約第5章第30条に基づき総会は成立した。

開会にあたっては鈴木理事長より大要次のような挨拶があった。

『本日はお忙しい中、また遠方からもご出席いただき誠にありがとうございます。この一年日本のビジネス界や日本人の物の考え方が変わってきていると感じます。ビジネスでは意味のあること、手応えのあること以外は切り捨ててゆくことが基本であろうと思いますが、協会がそうした存在であってはならないということが昨年度の総会の主旨でした。それを以てスタートした97年度の後半に理事会方針を策定し、おおよそ次の4つの行動を起こしました。第1に研修会を拡充し、時宜に即したテーマとして「金融ビッグバン」および「著作権と電子メディア」に関する研修会を開催しました。第2に共同物流提案とアンケートがあります。皆様から頂戴したものを基に、引き続き本年度の課題として何かが出来るかを探ります。第3は最大の問題である規約見直しに着手したことです。近々結論が出されるものと思います。第4がダイレクトリー電子化の試みで、たたき台を出すところまで進んでいます。いずれも次の役員体制に引き継ぐことになります。日本経済は去年夏以降政策の失敗から大変な事態になっていますが、こういう状況を何時までも甘んじて受ける訳にはいきません。我々は自ら生きる道を探して行かなければならず、これからの大きな課題になると考えます。理事をはじめ皆様方のあたたかいご支援とご指導のお陰で、本日無事総会を迎えられました。改めて御礼申し上げてご挨拶といたします。』

続いて戎井理事長代理より理事会報告、次いで各委員長（一部委員長代行）より委員会報告があった。

総務（西川／医学書院）、会報（杉山／日本出版貿易）、広報渉外（矢部／丸善）、事業（大倉／洋販）、ダイレクトリー（芦田／UPS）、文化厚生（鶴／東亜ブック）、規約改正（渡辺／洋販）

この後鈴木理事長を議長として案件審議に入った。

1997年度決算報告

内容説明：西川総務委員長

監査報告：沼尻（三省堂）・山縣（内外交易）監事

採決の結果拍手を以て可決・承認された。

以上の議事を以て理事および監事の任期を満了したので選挙管理委員会による役員改選に移った。

役員選挙

【選挙管理委員会】（敬称略）

委員長：平岩（アカデミア・ミュージック）

委　員：福本（マテマティカ）　成瀬（太陽洋書）
　　堀井（ミロブックサービス）鶴（東亜ブック）
　　村山（ゲーテ書房）　上原（友隣社）
　　石神（アメリカ大学出版局グループ）

事務局　高橋

目　次

定時総会報告 ……1•2
理事会報告・海外ニュース ……2
カレント・トピックス ……3
出版文化史逍遥(27) ……4
パソコン外論考(其8) ……5
アメリカ南部の学会出席 ……6•7
広　告 ……8

【開票結果】

投票総数　65票（理事・監事共無効投票なし）

理　事　当　選：丸善、日本出版貿易、洋販、UPS、医学書院、ユサコ、雄松堂書店

次　点：極東書店

監　事　当　選：内外交易、三省堂書店

次　点：南江堂

当選７社による新理事会に於いて互選の結果鈴木信夫氏（丸善）が新理事長に再任された。また、各委員会の委員長も同時に互選により以下のように決定した。

総務委員会	：	医学書院
会報委員会	：	日本出版貿易
広報渉外委員会	：	雄松堂書店
事業委員会	：	洋　販
ダイレクトリー委員会	：	ユサコ
文化厚生委員会	：	ＵＰＳ

1998年度予算提案

鈴木理事長の再任挨拶があった後、新理事会による今年度予算が提案された。［議長：鈴木理事長］

内容説明：西川総務委員長

採決の結果拍手を以て可決・承認された。

以上で全議事を終了し、新任各委員長および監事の自己紹介があった後、大要次のような中林理事の閉会の挨拶を以て1998年度定時総会を閉幕した。

『洋書輸入協会も難しい時代に入ってきました。50年余の歴史の中では、1950年代の草創期から発展期を経て成熟期を70年代に迎えましたが、安定期でなくてはならない1980年代にはバブルの影響でやや不安定となり、90年代には最盛期に比べ会員数が50社ほど減るまでになってきました。ここが底ではないかと思いますので、21世紀に向かって会員数を増やし、益々発展して行くよう新理事が力を合わせて参ります。一層のご支援をお願いします。』

総会終了後恒例の懇親会に移り、94名の出席を得て歓談のひとときを過ごした。

理事会報告

6月16日（火）

- 協会活性化のために会員を増やすことが急務である。理事会直轄の「会員増強委員会」（仮称）を設置し、理事が率先して新会員加入を促進する。
- 協会のイメージを一新し、会員の範囲を拡大するために名称を変えてはどうか。「日本洋書協会」が相応しい。（英文名：Japann Foreign-Books Assn.）
- Franfurt Book Fair では会員数社が個々にブースを設けているが、1999年にはこれらを一か所にまとめて JBIA ブースを開設する。
- 協会の基本的な方針等に関しては代表者による理事会が審議・決済し、日常的・実務的事項の審議・決済は代理者、委員長を交えた委員長会又は拡大理事会（いずれも仮称）が行うこととする。
- 事務局長は出来るだけ多くの会員を訪問すること。

海外ニュース

“ノン・ブックのインターネット書店開設”

インターネット書店INTERNET BOOKSHOP（IBS）は新しいウェブサイト（www.CDParadise.com）を開設して、CD、ヴィデオ、コンピュータ・ゲーム等の商品50,000点を、最高で30％引きという価格で提供する。今回このサイトを開いた主要な目的は、イギリスのオンライン小売業者との業務提携の機会を開拓することで、IBS が現在販売している４つの商品形態すべてを、どんな組み合せでも提携できるとのこと。IBS は２月に Lycos と、そして先月は Virgin. net および AOL. UK との契約を発表している。CDParadise の Mr. Ross Beadle, Marketing Manager は、「新しい市場に新しい商品を提供するため、昨年小売のためのソフトに相当の金額を投資した。今回のサイト開設は、新しい市場へ参入する戦略の第一段階だ」と語った。

IBS は来年早々ドイツにウェブサイトを新設して、英語およびドイツ語のタイトルを提供する予定。同社はサイト上で140万タイトルをオファーしているが、その注文の大多数はイギリスの取次業者３社（メインは THE）が扱っている。書籍以外の商品ラインナップは、この THE が在庫している商品群を反映している。

顧客は１回のアクセスで IBS の二つのサイトに商品を注文できる。1993年に開設された IBS のオリジナルのサイトでは１日1,000件以上の書籍が注文され、年率245％という勢いで毎年成長を続けている。

THE BOOKSELLER/MAY 29, 1998

カレント・トピックス

引き続き、M&A情報を手元の資料から拾ってみた。先ず、「週刊　医学界新聞、1998/5/11号、医学書院発行」に掲載された日野原重明先生（聖路加看護大学名誉学長、聖路加国際病院名誉院長）の「激変するアメリカ合衆国医療事情(1)」と題する記事から、合併や業務提携が米国の病院間で進んでいることに興味をひかれた。先生が昨年末に米国の東海岸の諸都市を1週間視察されたそのご報告である。

先ず、米国の医療システムについて述べられている。米国は日本や英国のように医療皆保険制度はなく、通常は保険会社と契約して、罹病時の入院および外来の医療費を保険会社から支払ってもらう。一般人が自由に加入する医療保険には、ブルークロス、カイザー・パーマネント・ヘルス・プラン（西部）、HMO（Health Maintenance Organization - 健康民間団体保険組織-東部）があるが、「保険支払側は病院または医師との間に個々の疾患別に医療費を予め取り決めておき、その範囲でしか支払わ」ない。そのため、大中小の病院が合併または連合体で交渉に臨むのは自衛手段とも言えるそうで、若干その他の業界における合併とはニュアンスが異なるのかも知れない。しかし、医療の質的向上と経済効果が証明されているとすれば、見逃すべからず、であろう。

米国の医療保険については、昔ニューヨーク駐在の際、ブルークロス加入を考えたが、掛け金が馬鹿にならないのと、適用範囲が限られていると聞かされ加入しなかったことを思いだした。米国の公的医療保険は皆無ではなく、貧困者補助保険のメディケイド（人口の約14%）と老齢者・身障者保険のメディケアがあるが、これらも補塡の範囲が限られているそうである。

さて、Puritan City と呼ばれる New England の中心都市である Massachusetts 州の首都ボストン、人口637,000、郊外も含めると3,554,000で南北戦争の史跡も多く、日本の大学のボストン・キャンパスもあり、われわれ日本人にとってはいろいろな意味で馴染みのふかい都市だと思う。そのボストンの郊外ケンブリッジにあるハーバード大学医学部は大学付属病院をもたず、ボストンの主な総合病院や高機能専門病院を関連教育病院として契約しているそうで、その中に先生が最も緊密な関係をもってこられたベス・イスラエル病院がある。この病院は創設1916年で高水準の研究・教育・診療を行なう第一級の存在。更に1996年に隣接ブロックにある、これもハーバード大学医学部の教育病院であったディーコネス総合病院（1816年創設）と合一して、場所も職員も配置分けし、一つの病院として機能する連合体として強化されたそうである。因に、位置的にそれぞれウェスト・キャンパス、イースト・キャンパスと呼び、マウント・アーバン病院を加え、総合ケアグループを形成しているという。

この外来棟の1階の施設は驚くほど立派で、カフェテリア、薬局、そしてライブラリーを備えた患者や家族のための学習室があり、「在宅ケアのための知識を得たり、実技を教えられたりする仕組みになっている。」日本からみると20年は先を行くと思われる、整った豪華な設備と人材が投入されている。「日帰り手術部門が機能するようになったために、一般外科手術の80%はここで行うことが可能となり、結果、ナース800人、病床200床を削減できたばかりか、外来患者数が21.5万人から35万人に増加した」という。所属職員数はナースを含めて1万1500人、うち総医師数は1700人、1年間に退院した患者数は6万9013人、「総収入は年間16億ドルにのぼると予測」されているそうである。

「マネージドケアを強要するHMOその他の保険会社に対抗するためには、病院を合併経営してその実力で交渉する必要が生じたのである。つまり、銀行や同列企業会社の合併にも似た社会的現象が医療経済にも及んできたのだといえよう。」と評され、更に先生は、いくつもの系列がある日本でも、「どこか大都市の病院がこれを行なえば、各地になだれ現象が生じるのではないかと案じられる」と述べられ、更に「病院経済が追い込まれている現状では、ハイテクノロジーの先端医療を経済的に実施するためにはやむを得ない方策といえなくもない」と結ばれた。

病院の連合または合一が、医療の質的向上、施設の近代化や充実そして患者と家族の教育、更には経済効果が健康保険と介護保険制度も含めた新しい時代への光明を与えてくれるならば素晴らしい。併せて、主要自動車メーカーの合併が、大気汚染対策の促進に、また、日本ビッグバンに沿った金融関係会社の M&A が、経営と業務の浄化に繋がれば、より良い生活環境を21世紀に約束してくれるかも知れない。　**（会報委員　荒木）**

（お詫び：5月号11行目、正しくは“Wolters”です。）

ウェブスターの輸入と日本近代化〔5〕

丸善・本の図書館　鈴 木 陽 二

◆洋書業者によるウェブスターの輸入(2)

『ウェブスター国際版英語大辞典』の最初の版が刊行されたのは1890年であった。丸善の洋書目録明治23年(1890)には出版案内が掲載されていないが、目録の発行が1月なので、その時点でまだ刊行のニュースを入手していなかったのであろう。そして、“Unabridged”が引き続き売れ筋商品であったようで、この号には写真入りで大きく広告されている。ちなみに、価格は13円(サム・インデックス13円50銭)であった。

国際版の出版が判明したときには、当然ながら大々的な広告をしたのであろうが、このころの『和洋書籍及文房具時価月報』(アナウンスメント)も単冊目録も存在していないので、残念ながら確認することはできない。そして、次の現存目録の明治26年には収録されている。そこには「新版ウェブスター氏　増補改正大辞典」と日本語で表記し、しかも写真入りで大きく掲載しているところを見ると、重点販売商品として取り扱ったことがわかる。価格はプレーン版が13円50銭、サム・インデックス版が14円50銭であった。

さらに言及すると、「ウェブスター・カレッジ版英語辞典』は1898年に初版が刊行されたが、丸善は早くも翌年の『学鐙』1899(明治32年)8月号で1ページを使って大々的に広告している。

◆ウェブスター辞書の日本近代化への影響(1)

明治初期における官庁学校や図書館における各種ウェブスター辞書の所蔵状況を見ると、この辞書が怒濤のように日本に流れこんだといったらオーバーな表現になるであろうが、しかし、そういう形容詞が脳裏に浮かんでくるほどこの辞書の流入は激しかった。すでに述べたように、幕府遣米使節による数千冊の購入、福沢諭吉の数百冊と思われる輸入、東京開成学校での数百冊におよぶ所蔵などの例、また日本の天皇から500冊の注文があったという記録(メリアム社社史『ノアの方舟』)など、ウェブスター辞書に対する貪欲なまでの欲求は驚くほどである。一種の「ウェブスター」信仰が横溢していた感があるが、この辞書が英米文化の摂取にとって欠くことのできない基本的なツールであったことを証明しているといえる。つまりこの辞書は、日本の欧米化、近代化にとってもっとも大きな貢献をしたといっても間違いではないだろう。

幕末・明治期の多くの知識人が英米文化の吸収にどれだけウェブスターの辞書に頼ったか、調べればいろいろな例証が出てくることと思うが、池田哲郎先生の論文からまた引きで一例を紹介したい。立教学校(現立教大学)で英文学を学んだ河島敬蔵はシェイクスピアの初期翻訳家として著名な人物で、明治16年に「ジュリアス・シーザー」の翻訳『欧州戯曲　ジュリアスシーザルの劇』を「日本立憲政党新聞」に発表した。これは原作からの翻訳としては始めてのもので、坪内逍遥のシェイクスピア翻訳が始まる以前のことであった。付言すれば、河島は明治19年にも「ロミオとジュリエット」の翻訳『露妙樹利戯曲　春情浮世之夢』を上梓するなど、シェイクスピア全作品の翻訳を意図したということである。河島は作品の翻訳に当たって使用できる資料はなく、ウェブスターの辞書だけを頼りに訳し、その苦心惨憺の訳は原作に忠実で優れたものであったという。

シェイクスピアでもうひとつ紹介すると、和田垣謙三は経済学者であって明治12年に「リア王」の漢訳『李王』を上梓しているが、彼はまた明治34年にウェブスターの影響を受けた『新英和辞典』を編集している。そういうことから「リア王」翻訳のときにはウェブスターを大いに活用したであろうことは想像に難くない。

このように、明治の知識人によってウェブスター自体が使いこなされたのであって、もしウェブスターがなかったら近代化がこれほど急速に進展したのだろうか、と思えなくもない。しかしそれだけではなく早川勇先生が「明治時代に刊行された英和辞書のほとんどすべてがウェブスター辞書の影響を受けているといっても過言ではない」と述べているように、日本で編集された英語辞書の使用という側面からもウェブスターの影響をこうむったわけで、その浸透は隅々まで及んだといえる。

〔参照図書：早川勇『ウェブスター辞書と英和辞典』／池田哲郎「Noah Webster の辞典と綴字書を巡って」〕

パソコン外論考（其8）

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆思い出は星の屑ほどあれど・・。/Stardust

無友不如己者、過則勿憚改、

(The Master said),' Do not accept as friend anyone who is not as good as you. When you make a mistake, do not be afraid of mending your ways.'

（論語/学而・Confucius; The Analects/Book I）

【超拙意訳；（先生は言われた。）「自分にとって、あんまりいい『友』とは考えられないものとは、つきあうなってことだな。もし、この『友』選びが、間違ってたという時は、遠慮せずにその友と訣別を告げろ、ってことだな」＝荻生徂徠の訳によっています】

先号からのちょっとだけの関心事。Win98とInternetの閲覧ソフトIEの「抱合せ販売」に対して、州および司法省などが「独占禁止法違反」でMS社を提訴。これは、パソコン側のsoftwareの独占代表。ついでに、といっては何ですが、hardwareの代表でもあるIntel社も「独占的地位乱用」、すなわち反トラスト法（独占禁止法）違反で米連邦取引委員会（FTC＝Federal Trade Commission）から提訴されました。Intel Insideということでcpuシェアでは80%強をほぼ独占。残20%のシェアを分けあうIntel Outside陣営各社のそれは、最大でも5%に満たない有様。この決着は、日本のように10年戦争にはならないだろうが、早くても1年後ぐらいになるでしょうから、まあ、Win98の発売等には影響はあまりないでしょう。ということで、パソコンのCPUの実行速度について考えてみます。

現時点での、パソコンのspecifications（まあ、カタログ仕様）上での最速パソコン（Work Stationなどを含まない通常の）は、【諦念・推奨割切りコンピューター】で、泣く泣く推奨しておりますclass-1のものです。

class-1・PentiumⅡ/400MHz＝PⅡ/350MHz
class-2・PentiumⅡ/333MHz←つい2～3か月前の最速
class-3・PentiumⅡ/266MHz
class-4・MMX-Pentium/233MHz＝MX-P/200MHz
class-5・Pentium/75MHz
class-X・486DX-2/66MHz

以上のCPU（同等互換CPUも可）のみが、現在のWin95を使用できるパソコンとなります。蛇足ながら、MHzは数が多い方が処理速度は速いのです（以下RAMも同様です。また、グラフィックRAMは、多い方が解像度がキレイ。まあ、だけど通常の使用であれば2MBでgood。ついでにCPUの400MHzといえば、車で最高時速400kmと対比して考えてください）。

そこで、今回筆者の友人知人を総動員（合計8人）いたしました。が、最高速のパソコンの持ち主がclass-2止まり。筆者も畏友の獣医師もclass-Xのポンコツものを後生大事と使用している始末（少々言い訳を。DOSベースのテキストのためにしかパソコンを使用しないので、使いなれたワードプロセッサーが動けば十二分。データベースなども超高速。重たいWindowsなんてという信念を保持。そりゃ、たまにWin95も見ますが。友人知人筆者も含めて全員がクラス1へのupgrade、潜在的購入欲求者、まあ500MHzぐらいが出たらと）。

かてて加えて、総動員の各人の機器構成は、てんでバラバラ。RAM96MB搭載が1人、64が3人、32が4人、グラフィックRAM 4MBが1人、他は2MB。

ということで、普通の人々が「普通」に使う意味で、パソコンのスイッチを入れてからWin95の起動までを、ストップウォッチで測定しようとしました。ところが、各人各様の起動設定、Virusチェック起動等々、こりゃだめだ、ってことで、wordprocessorワードプロセッサーでと、「これは使ってない！」で終り。で、Win95の中のゲームをやったり、ワープロを、DOSに降りてみたり、データベースを使ってみたりしてみました。

結論。クラスXとクラス2では、多少の差（車のスピードでいえば333kmと66kmの差でなく、90kmと66kmの体感スピード）はあります。が、実用ではウぁーということはないですね。クラス4とクラス2の差はあまり感じられません。この秘密は、クラス2までのパソコンは、システムバスのMHzが66MHzというところにあるのです。車でいえば、最高時速333km、だがタイヤそのものは100km用ですので、100km以下でしか走れない、のようなものです。このシステムバスが100MHzのものが出はじめたのがクラス1のものからです。このクラス1の処理速度の事については、いずれかの機会に。

で、気になってた事を一言。Win95のclosingのメッセージ「コンピュータ（ー）の電源を切る準備ができました」。思わず切る準備と何だ?!。今度のWin98ではどうなってますやら・・。これならWinNTの「コンピュータ（ー）のシャットダウン/・電源を切断しても安全です・再起動」の方がマシか。以下次号。乞御期待。

アメリカ南部の学会出席

島岡　丘

5月連休中にアメリカ南部、Alabama 州 Gadsden で行われた学会発表に出かけることとした。学会は Third Annual International Symposium on Language, Literature, History and Culture である。アメリカ国内で途中下船しても航空運賃は変わらないので、途中 Seattle と Omaha で降り、それぞれ1日、2日と滞在し、地元の友人と久しぶりに会うことにした。

Seattle は one of the most livable cities in the States と在日フルブライトの事務局長から聞いたことがある。豊かな森と湖に恵まれており、市内には6つの丘があって、起伏に富む。それらの丘に上がって海岸線のほうを眺めると、彼方に Mt. Rainer を望める Seattle の町は確かに魅力的だ。一度、開隆堂の中学英語検定教科書 Sunshine の登場人物に Seattle の Magnolia Hill の中学に通う生徒を選んだことがある。そのため現地録音や現地取材のために幾度となく足を運んだ。特定地域を選ぶことは語法調査の面からもよいわけであるが、「アメリカ一辺倒の教科書」という無責任な発言のために取りやめになった。Seattle は、また、かつて戦後間もなく NHK ラジオ英会話講師を5年間務められた平川唯一先生がはじめてアメリカの土を踏んだところとしても知られている。

今回は親しいアメリカの友人と Seattle の港の水平線上に輝く夕焼けを眺めながら、今流行の Merlot（メァ〜ロウ）赤ワインを飲み交わし、シルバーサーモン（Silver salmon、地元では「**スィ**ウヴァ　**セア**ムン」のように発音する）の料理を食べながら、時を忘れ語り合った。アメリカから日本のことを見ると、何か小さなことでいそがしそうに無駄な時間を過ごしているような気がした。

Omaha に行くには Saltlake City で乗り換える。イギリス系の航空会社では transit をよく使うようだが、アメリカでは connecting lines の表現をよく耳にした。うっかりしがちなのは、時差が異なることである。一度、You've got to correct time. と言われて、You've got to の部分があまりに弱くまた早く発音するものだから、correct time だけが印象に残り、自分の時計が正しい時間だと思わされ危うく乗り遅れそうになった。

Omaha では40年ぶりに友達が会いにきてくれた。最初にアメリカにフルブライトプログラムで留学したとき、ホームステイさせてくれた親切な一家である。O. Henry の小説に *After twenty years* があるが、その倍の40年では当然変化がある。その友人は3人の娘さんと1人の息子さんがいるが、お嬢さん方はみな結婚し、子供ができ、孫などを合わせると全部で20人になるそうだ。そのうちの約半分以上が空港に出迎えにきてくれたので、たいへん嬉しい思いをした。

住んでいるところは Omaha から車で2時間半のところにある La Mars という町である。昼間は鍵をかけたことがないという話を聞き、昔の悠然としたアメリカがまだ残っているという感じだった。途中 De Soto の博物館に寄ったが、そこには19世紀にミズリー川に沈んだ船が引き上げられたお陰で船積みされていた品物が全部見ることができ、当時の流行だった婦人の帽子、使っていた食器、服装などがすべて見られる興味深いところだった。

その友人も教職を定年退職し新たな人生を歩んでいた。運転技術を教える講座を開いたり、近所の芝生の手入れをしたりしているそうで、裏庭には芝刈り機など様々な機械や道具などが自製の物置に格納されていた。本人は "I'm a little capitalist." と口癖のように言ってまわりの人たちを笑わせていた。

一つ感心したのは、高校の世界史の教師を辞めてからも自分の興味を持つ分野の研究を続けていることだった。地下に自分の図書室を持ち、そこに Will and Ariel Durant の文明史全十巻などを揃え、着々と読み進んでいた。また、アメリカの政策で土着のインディアンの人たちを苦境に追い込んだ歴史に心を痛め、インディアンに関する文献を集めて読みふけり、さらに自らインディアンの人たちの住んでいる村に訪れている。学会でインディアンの血を受けついでいるという Jerry Ellis さんの話を直接聞くことができたので、同氏が書いた *Walking the Trail-one man's journey along the Charokee Trail of Tears* の著書を自署入りにして送ってあげた。私も自分のためにもう1冊購入したが、即座に次のような文を裏表紙に書いてくれた。

A joy to meet you.
Hope this touches your heart,
Warmly,
Jerry Ellis

私も読書好きだが、私の友人の奥さんのほうは読書好

きな夫をよく理解し、夫の邪魔にならないように自分は編み物をして時間を過ごしたそうだ。無理矢理に夫婦の共同行動を取ろうとしない賢明さをもっておられた。私のその友人はDurantの著書を読了し、私に是非読むようにと勧めてくれたので、Durantの最後の巻、The Lessons of Historyを神田で購入し、今興味深く読み返している。日本では、世界史関係はArnold Toynbeeが注目を集めていたが、Durantのものも視野が広く歴史書としても価値が高いと思う。

さて、「学会」というと一般に堅いイメージを持ちがちだが、実際はそんな固い感じはない。ふだんなかなか会えない人や思いがけない人にも会えるし、著書だけで知っている高名な学者にも直接話し合えるという楽しい時なのである。私もinternational guestと呼ばれ、その一人として、あたたかい歓迎を受けた。日本以外にもウクライナやブラジルなどからも来ており、興味深い情報交換ができた。ウクライナの大学で教えているNinaさんという外国語教授法の先生はHarold E. Palmerのことをよく知っていた。世界からの学者とも、寝食を共にすることができ、その間貴重な情報を交換し心理的な距離感を埋めることができる。

研究発表は人によって様々である。原稿をただ読み上げる人、原稿をほとんど見ないで、ドラマチックに話す人などいろいろあったが、最もよい発表はしっかりとした発表原稿を用意してはいるものの、実際の発表ではその原稿にはとらわれず、聞いている人たちとの表情などを見て、強調したり、反復したりして、発表者と聞き手と間に共感を作ることであると思う。また、聞き手からの質問に対してはThank you for asking me that question. と言い、友好的に議論を展開するのがよいと思う。

聴衆の中には、日本語を知らない人もおれば、日本語はむずかしいと決め込んでいる人もいるので、私は地理的見地から話し始めた。もともと世界の言語や思想はユーラシア大陸の中ほどあたりから東へ東へと進み、日本語のアイウエオという形で結実する。一方、西へ西へと進んだ思想や言語はオリエンタリズムという形で受け入れられアルファベットの形で英語にも具体化した。言語学者や言語教育者の役割はこの両極端の2言語の共通点や枠組みを提示し、それを活用することであるとし、私が提唱している共通の枠組み、3・3 Squareを説明した。また、英語を外国語として学習する際、学習者のそれぞれの母語を最大限活用し、英語とインターフェイスさせ、どの箇所に注意すべきかを話した。

私は英語の子音連結（connsonant cluster）に注目し、tryは日本語ではトライ（to-ra-i）のようになるので、to **lie**と誤解されないようにするためにrをはずし、「**チュアイ**」、つまり、**chu**-aiとしてはどうかと提案した。必ずしも賛成は得られたわけではないが、近似値的発音（approximate pronunciation）のシステムとしては賛成が得られたように思う。会場に来てくれたブラジルのロン君はholistic approachを用いて上級クラスを担当しているが、その指導法に敬意を表し、筆者も統合的教授法（integrated approach）を進め語彙項目のネットワークを試みていることを紹介した。

印度あたりから東西に文化が伝わったという仮説は、英文学講義を担当された故R. H. Blyth教授に負うており、また、integrated approachはサンフランシスコ州立大学教授であったJohn Dennis教授に負うている。また、日本と英国の国土をユーラシア大陸の東西にいわば沖合いに停泊しているという捉え方はオックスフォード大学の日本学者Richard Storry教授が1975年5月にエリザベス女王の訪日記念として、London Timesに寄稿した論文による。この論文が掲載されたことを教えてくれたのは日本OUPのマネジャーだった川脇達郎さんであった。私の発表では若干表現を変え、ユーラシア大陸を象にたとえ、アメリカをブラジルとコロンビアなどの岩端にとまって太平洋を見据える禿鷲（bald eagle）にたとえた。また、日本をUnsinkable Titanicにたとえるというような大胆なことを言っても受け入れてくれるアメリカ南部のおおらかな気持ちとあたたかい友情をたいへんありがたいと思った。

Gadsdenのキャンパスには28名の日本からの留学生がおり、英語の勉強をしていた。1名だけ、こちらで経済学を専攻しており、日本語教育のアルバイトをしていた。英語を通して、文化交流などができることを地元では望んでいるようだった。日本の製品特に日本車や電気器具類が評判が良いのは印象的だった。なぜ日本車が評判が良いか聞いたところ、第一に故障しないこと、第二にスタイルがいいという答えが返ってきた。日本製の英語も車や電気製品のように一流にしたいものだ。

（茨城キリスト教大学教授）

CD-FICHE MIL-SPECS
MIL 規格データベース CD-ROM 版

(USA Information Systems, Inc.)

CD-FICHE MIL-SPECS は、アメリカの 70,000 件を超える現行の軍用規格・連邦規格を画像データとして 48 枚の CD-ROM に収録したもので、利用者はウィンドウズ上で容易に必要とする規格にアクセスし、参照することが出来ます。

□ ***本製品の特徴：***

- 規格番号、キーワード等による様々な検索機能
- 最新の scanning 技術で、鮮明な画像表示が可能
- 利用人数（サイト数）に応じた価格の設定が可能
- クーリエ発送による月１回のアップデートサービス

□ ***収録されている規格：***

- **MIL** (Military Specifications, Standards, Handbooks & Bulletins)
- **JANS** (Joint Army-Navy Specifications & Standards)
- **FED** (Federal Specifications, Standards & Handbooks)
- **QPL** (Qualified Products Lists)
- **AN, ANA, AND** (Air Force-Navy Aeronautical Standards, Bulletins & Drawings)
- **DS** (DOD Standard Drawings)
- **MS, DESC, SMD** (Drawings & Specifications)
- **DIDS** (Data Item Descriptions)
- **CIDS** (Commercial Item Descriptions)

この CD-ROM には、上記の規格のうち、1996 年当時に Active であったもの、及びそれ以降に発行された文書（DODISS を含む）が、収録されています。

□ ***Minimum System Requirements***

- Windows 3.1 or higher • 8 Megabytes of RAM • 10-20 Megabytes of Hard Disk Space
- VGA Monitor • Minimum of two (2) CD-ROM Drives

□ 価格: ¥1,190,000.-（シングルユーザー本体価格） □２サイト以上、または LAN でのご使用の場合は、弊社特販部までお問い合わせください。

USA Information Systems 日本総代理店
株式会社ニュートリノ
本社：〒182-0024 東京都調布市布田 1-44-3 高橋ビル
TEL : 0424-84-5550 FAX : 0424-84-5556 e-mail: neutrino@coral.ocn.ne.jp

1998年６月　通巻第373号　洋書輸入協会　編集者 高橋 紘
〒103-0027 東京都中央区日本橋1－21－4 千代田会館５階20号室 ☎(03)3271－6901 FAX.(03)3271－6920
印刷所＝藤本綜合印刷株式会社